

栄東地区 学校配置検討委員会ニュース

2024 年 5 月 発行

栄東地区では、栄東小学校と栄緑小学校の小規模化による課題の解決等のため、令和 5 年 2 月より「学校配置検討委員会」を設置し、検討を進めています。

「取組案」は一つの案であり、決定事項ではありません。
みなさまのご意見を事務局までお寄せください。

検討委員会の配布資料等については札幌市教育委員会のウェブページに掲載しています。
<https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/sakaehigashi.html>

※ 第 4 回目の検討委員会後、第 5 回検討委員会開催までの間に地域から 4 件の意見が寄せられており、第 5 回の資料として検討委員会内で共有（内容確認）しています。



札幌市と教育委員会は、「学校配置検討委員会」（以下「検討委員会」といいます。）で協議を進めるためのたたき台となる「取組案」を作成し、第 1 回検討委員会（令和 5 年 2 月 21 日開催）において提示しました。

※ 「取組案」の詳細については、教育委員会のウェブページ（上記二次元コード参照）より、「第 1 回栄東地区学校配置検討委員会当日資料」をご覧ください。

検討委員会では、引き続き、この「取組案」のとおり、学校規模の適正化を図るとした場合に考えられる課題などについて、協議、検討していくこととしています。

このたび、令和 6 年 3 月 5 日に第 5 回検討委員会を開催いたしました。検討状況につきまして、地域の皆様へお知らせします。**ぜひ多くのご意見をお寄せください。**

1. 第 5 回検討委員会について

第 5 回の検討委員会では、第 4 回に引き続き、これからどのような協議が必要なのか、検討委員会内で共通認識をもつために「取組案における課題の整理」について協議を行いました。

協議にあたっては、第 4 回開催後に地域から寄せられた意見を紹介するとともに、意見に対する教育委員会の見解を共有しました。

当日の委員からの意見や質疑の応答と併せて概要を掲載しています。

2. 取組案における課題の整理について

※ 類似の発言内容をまとめるなど文言を整理して掲載しています。

「○」…委員からの意見 「●」…質問等 「⇒」…委員、札幌市・教育委員会からの説明、回答

(取組案・学校統合について)

○小規模校の良し悪しについては、子育て環境と同じく、一人っ子が良いのか、兄弟姉妹が多い方が良いのか議論しても両方に長所があり、正解がないことと同じである。よって、良し悪しではなく、統合となった場合の通学安全や通学区域に関する議論を深めていく方が良い。

⇒ 学校配置検討委員会では、小規模校の良し悪しの観点で統合する・しないを協議するのではなく、取組案のとおり進めた場合に、子どもたちの教育環境が現状より著しく悪化するような課題がないかという視点で協議いただきたいと考えている。(教育委員会)

- 能登半島地震の状況を見ると、札幌で災害が発生しても子どもたちが身を守れるように、より安全で新しい校舎が出来た方がよい。
- 栄東小学校では、体育館の暖房が故障したり、グラウンドで地盤沈下が起きたりするなど校舎の老朽化が非常に進んでおり、不安がある。
- 基本的に取り組案には賛成している。取組案に対して不安を抱いている人へ、その不安を払拭できるよう統合した場合のメリットを出した方がよい。
- 学校規模適正化の取組の必要性は理解できる一方で、取組に反対する意見が多く出てきている状況でもある。丁寧な説明や話し合いが必要と感じている。
- 反対意見が出てくることは当たり前であり、取組案に反対している方が抱えている課題にどのように対策していくかという協議にシフトしていった方がよい。
- 厚別区や南区の統合後の学校で実施されたアンケートが、教育委員会のホームページに掲載されているが、にぎやかで楽しくなったなど前向きな意見が多かった。不安があるから反対の気持ちがある人も多いと思うので、統合後の学校生活を具体的にイメージできるように、課題に対してどのように改善していくのかについて、議論が深まっていけば、理解を得やすくなるのではないかと。
- 学校までの距離が遠くなるとか、通学安全の部分が不安視されている意見が寄せられているため、統合となった時のメリットや、どの程度のサポートがあるのかというところが明確になれば、不安も少しは改善されるのではないかと。
- 反対の気持ちを抱く方がいる一方で、賛成の思いの方がいる。賛成と反対が均衡した場合に、一切進まないままということは望ましくない。この検討委員会で議論を引っ張っていく気持ちで協議を続けたい。

(通学安全・通学距離について)

- 学校統合となる場合には、やはり「指定変更区域」を設定し、統合新設校のほか、栄緑小の周辺の百合が原小や栄北小など、より近い学校を選択できるように対応すべきと考える。
- ドライバーに向けた注意喚起のため、道路や電柱等に路面表示、看板などが整備されることが望ましいと考えているので今後検討していきたい。
- 学校統合のある・なしに関わらず、これまでもそうであったように、子どもの安全はこれからも地域で守っていく必要がある。地域の町内会では、先を見据えて地域として今できること、例えば「この場所の除雪がしっかりとなされるとよい」「ここに信号機がほしいよね」といった検討を少しずつであるが進めている。今後、この検討委員会でもそういった検討をしていきたい。

協議結果：

- ・保護者や地域の方が感じている取組案に対する不安の解消に向けて、学校統合により期待できる効果を中心に協議していく

3. 地域や保護者等から寄せられた意見への教育委員会の見解

地域や保護者から寄せられた意見については、委員会の議論の素材とさせていただきますが、委員から教育委員会の見解も共有すべき旨のご意見をいただきました。

そこで、第4回から第5回までに寄せられた4件のご意見に対する教育委員会の見解の概要につき、下記のとおりお知らせします。（紙面の都合から、趣旨を損なわない範囲で要約しています。）

意見原文については、教育委員会ウェブページに掲載している「第5回栄東地区学校配置検討委員会当日資料」内の「資料2 地域や保護者から寄せられた意見」をご覧ください。

<ご意見1>

- 栄東小を分けて栄小と栄緑小に編入させ、栄緑小は残せば、栄東小校舎の解体費だけで済む。また、栄緑小は児童数が少なく空き教室があると思うので、栄東小の児童を受け入れられるのではないかと。
- 栄東小と栄緑小が栄東小敷地で統合となると、太平駅付近に住んでいる保護者が児童会館まで遠くなるため、仕事終わりに迎えに行くためには車がなければ迎えに行けない。

⇒教育委員会の見解

- ▶校区が隣接する栄東小学校の経年劣化が認められることから、両校を統合し、校区の中心に近い栄東小を統合校の位置とし、併せて老朽化している学校施設を改築することが望ましいと考えたものです。
- ▶また、栄東小を廃止して、栄緑小、栄小に編入した場合には、両校において教室数不足が発生し、児童を収容することができなくなる見込みです。

<ご意見2>

- 第1号のニュースで両学校の推計学級数が記載されていたが、統合した場合23～27学級になる。タイミングによっては適正規模を超えることがあり、子どもの教育や学校生活に支障が出ないか心配。
- 他地域でマンモス校になっている学校の運動会など子どもの成長を見る機会では、見に来た保護者の数が増えてしまい、まともに見れないと聞いた。子どもも保護者に見られて、頑張ったり悔しかったりと大切なイベント。統合されてもグラウンドが広がるわけではないと思うので、統合された場合に不安を感じる。

⇒教育委員会の見解

- ▶学級の編制は児童数に基づき行うため、統合校の学級数が両校の学級数を単純に足した数にならない場合があり、現時点では適正規模（21～24学級）となる見込みです。
- ▶仮に取組案での学校統合が決定した場合、校舎や体育館、グラウンドの配置については、統合後の学校規模を考慮した上で、設計の中で検討していきます。体育館やグラウンドの広さを確保することは重要であり、敷地面積の最大限の活用を前提として検討し、より良い教育環境を整えたいと考えています。

<ご意見3>

- 子どもたちを地域で育てることを考えるなら、興味のある一般市民も傍聴できるようにした方がいい

⇒教育委員会の見解

- ▶自由で活発な議論を行うため、非公開での開催を第1回栄東地区学校配置検討委員会で決定しました。
- ▶検討状況につきましては、今後も「学校配置検討委員会ニュース」にて引き続き地域の皆さまへお知らせしてまいりますので、ぜひご覧いただき、ご意見をお寄せください。

<ご意見4>

- 昨今の異常気象や歩道の狭さを考えると通学安全に不安がある。また、栄緑小が閉校となると災害時の避難所がなくなることも不安。
- 多面的な考え方やコミュニケーション能力は中学で身に付くように思う。小学生のうちには他学年の児童や先生方との交流、近い距離感で関わってもらう事の方が重要に思う。
- 多くの方の意見を聞くためにはアンケート等も検討すべき。

⇒教育委員会の見解

- ▶学校統合に伴い、統合前の学校の通学区の境界など子どもたちが新たに通る路（みち）が生じます。今後、学校配置検討委員会において、統合後の通学路として想定される路の通学安全についても検討を行っていきます。また、学校が閉校した後の学校施設の扱い（跡活用）についても、今後、学校配置検討委員会において協議事項として設定し、方向性に関する検討を行う予定です。
- ▶少人数学級でより目の行き届く環境を目指しながら、様々な個性と出会い、切磋琢磨し、個性や社会性を身に付けるという観点から一定の学級数（1学年に複数の学級）が必要と考えています。
- ▶全戸に検討委員会ニュースを配布し事務局までEメール、電話、Faxでご意見をお寄せいただくことで、より柔軟に地域の皆様から広くご意見をいただくこととしております。今後もぜひご意見をお寄せください。

次回の検討委員会について

- ▶会議名 第6回 栄東地区 学校配置検討委員会
- ▶開催日時 2024年(令和6年)6月4日火曜日 16時00分から
- ▶開催場所 栄新和町内会館（東区北48条東10丁目3番8号）

※ 検討委員のみが参加する会議のため、一般の方は入場できません。内容は後日ニュースレターやウェブページでお知らせいたします。また、日程は都合により変更となる場合があります。

次回（第6回）検討委員会の議題（予定）

- ▶第5回検討委員会の振り返り ▶地域や保護者等から寄せられたご意見等の共有
- ▶適正な学校規模で期待できることについて

ご意見、ご質問は、下記事務局までお寄せください。

栄東地区 学校配置検討委員会事務局

- ▶札幌市教育委員会生涯学習部学校施設課（学校配置マネジメント担当）
- ▶電話：011-211-3836 FAX：011-211-3837
- ▶e-mail：gakkohaichi@city.sapporo.jp

検討委員会の開催概要は札幌市教育委員会のウェブページにも掲載しています。

<https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/sakaehigashi.html>

学校規模適正化 栄東

検索



さっぽろ市
02-S01-24-1025
R6-2-768
SAPPORO